

旭化成株式会社

グリーンボンド・フレームワーク

ASAHI KASEI GREEN BOND FRAMEWORK

2023年11月

内容

1. はじめに	2
1.1 グループ理念体系	2
1.2 サステナビリティ基本方針	3
1.3 2050 年に向けたサステナビリティの方向性	4
1.4 2030 年に目指す姿	4
1.5 中期経営計画 2024 ～Be a Trailblazer～（2022～2024 年度）	4
2. グリーンボンド・フレームワーク	6
2.1 調達資金の使途	6
2.2 プロジェクトの評価及び選定のプロセス	7
2.3 調達資金の管理	7
2.4 レポーティング	8

1. はじめに

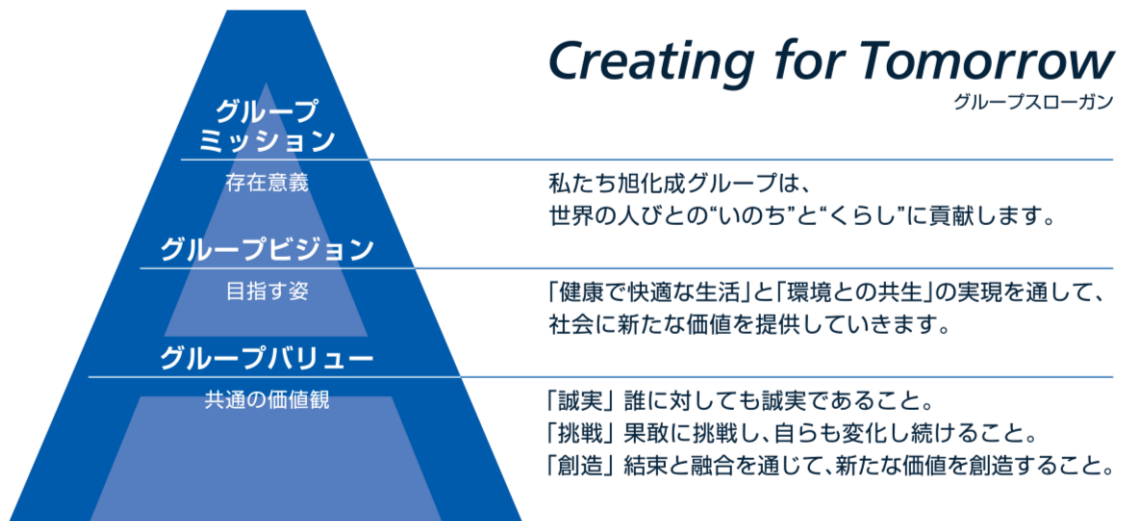
旭化成株式会社（以下、「当社」）は、1922年に創業した旭化成グループ（以下、「当社グループ」）の中核となる総合化学メーカーです。

当社グループは、グループビジョンに掲げている「健康で快適な生活」と「環境との共生」の実現を通して社会に新たな価値を提供するべく企業活動を行っています。持続可能な社会に貢献すると同時にそれを旭化成グループの持続的な企業価値の向上につなげていく、2つのサステナビリティの好循環の実現を目指しています。

今般、当社グループのカーボンニュートラルでサステナブルな世界の実現に向けた取り組みについて、資金調達面からも推進していることを幅広いステークホルダーの皆様にお伝えすべく、当社はグリーンボンド・フレームワーク（以下、「本フレームワーク」）を策定しました。

1.1 グループ理念体系

当社グループは、人類の幸福への願いを胸に、「人びとがよりよい生活を実現できるよう、最も良い生活資材を、豊富に低価格で提供すること」を唱える創業者によって設立されました。それから約一世紀、時代環境によって社会が求めるものは変わりましたが、常に創業時の想いを大切に、事業展開してまいりました。社会の変化を先取りして挑戦すること、そして自らも変化していくこと、それが創業以来変わることのない当社グループのあり方です。



1.2 サステナビリティ基本方針

当社グループは、上記グループ理念体系のもと、サステナブルな社会の実現に向けた行動を一段と推進していくため「サステナビリティ基本方針」を2021年に制定しました。

当社グループは、「世界の人びとの“いのち”と“くらし”に貢献」するため、「持続可能な社会への貢献」と「持続的な企業価値向上」の2つのサステナビリティの好循環を追求します。価値ある「持続可能な社会への貢献」が、高い収益性を伴う「持続的な企業価値向上」をもたらし、これが更なる貢献への挑戦を可能にしていく姿です。

当社グループは、その実現に最適なガバナンスを追求するとともに、以下を実践していきます。

持続可能な社会への貢献による価値創出

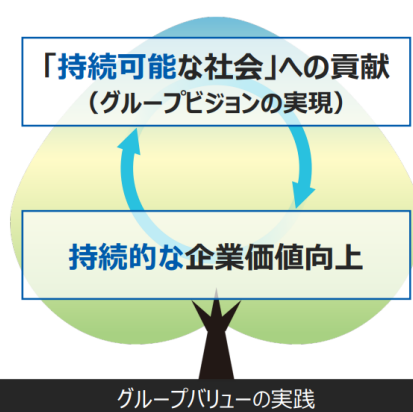
- 人と地球の課題解決を、付加価値の高い事業ドメインにより、追求します [Care for People, Care for Earth]
- 当社グループの特長である多様性と変革力を価値創出に活かします [Connect, Communication, Challenge]

責任ある事業活動

- 法令を遵守するとともに、企業活動に関する国際規範を尊重します [Compliance]
- 環境保全、保安防災、労働安全衛生、健康、人権、品質保証に、あらゆる事業活動で配慮します
- ステークホルダーへの適切な情報開示と対話を行います

従業員の活躍の促進

- ダイバーシティ&インクルージョンを重視します
- ひとり一人の成長・活躍・挑戦を促進します



1.3 2050 年に向けたサステナビリティの方向性

気候変動や世界の人びとを苦しめた COVID-19 に象徴されるように、当社グループが掲げている「Care for People, Care for Earth」(人と地球の未来を想う)の重要性はさらに高まっています。

このような中、当社グループは 2050 年を見据え、2 つのテーマにチャレンジしています。Care for Earth の視点での「カーボンニュートラルでサステナブルな世界の実現」、Care for People の視点での「ニューノーマルでの生き生きとした暮らしの実現」です。

2050 年を見据えると、さまざまな社会課題が予測されます。当社グループはそれらの課題の解決に貢献していくことで、事業の機会を広げていくことができると考えています。

例えば「Care for Earth」(カーボンニュートラルでサステナブルな世界の実現)では、自動車電動化、水素社会の実現、カーボンリサイクル、サーキュラーエコミー(循環経済)といった重要テーマに対し、電池材料、アルカリ水電解システム、CO₂ 分離・回収、リサイクル技術、バイオマス活用など、主に「マテリアル」領域の事業で貢献していくことができます。また、ZEH(Zero Energy House)や断熱材の供給を通じて「住宅」領域でも貢献が可能です。

「Care for People」(ニューノーマルでの生き生きとした暮らしの実現)では、気候変動が進む中、風水害や酷暑に耐える住宅や街づくりの事業、また、健康で生き生きとした暮らしの実現のための医薬品・医療機器などのヘルスケア事業で貢献していくことができます。

当社グループは 2 つのテーマへのチャレンジで社会への価値提供を目指すとともに、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス、人権尊重、安全・品質等、当社グループの事業活動を支える基盤的活動を強化し、当社グループが目指す 2 つの持続可能性「持続可能な社会への貢献」と「持続的な企業価値の向上」を追求していきます。

1.4 2030 年を目指す姿

当社グループは 2050 年を見据えつつ、2030 年に向けては、社会が直面するより具体的な課題に関し、「Environment & Energy」、「Mobility」、「Life Material」、「Home & Living」、「Health Care」の 5 つの分野を当社グループの価値提供分野と位置づけ、重点的な事業展開をしていきます。特に、これからは社会課題間での垣根が低くなり、相互に関連し合う要素が増えてきます。そのような中、多様な事業を持つ当社グループは、様々な分野において価値を提供することができることから、大きな事業機会を有していると認識しています。当社グループでは、無形資産の価値がこれから一段と重要になると考えており、技術、知財、人財などの価値を、デジタル技術も活用しながら最大化し、社会課題の解決にも取り組んでまいります。

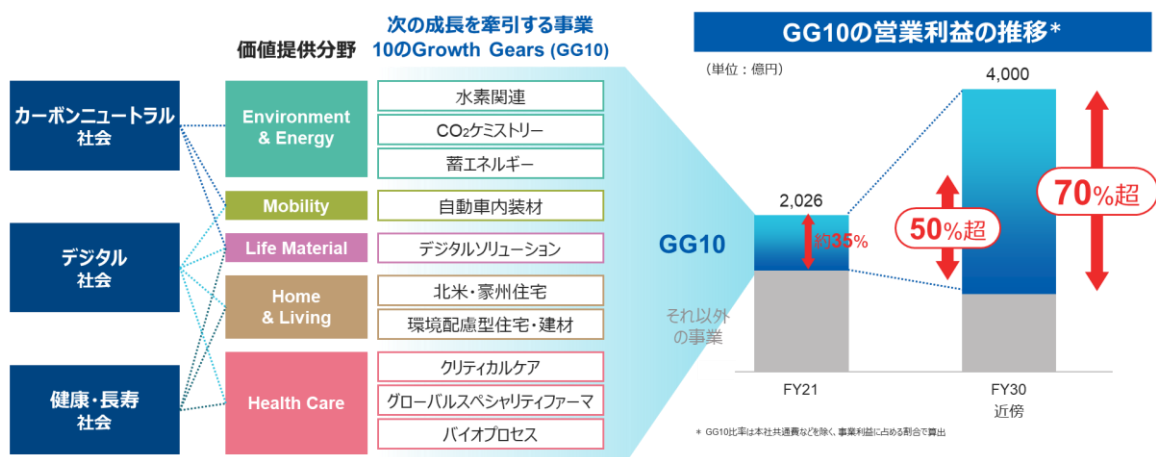
1.5 中期経営計画 2024 ～Be a Trailblazer～ (2022～2024 年度)

当社グループは 2022 年で創業 100 周年を迎え、中期経営計画の副題として示した「Be a Trailblazer」の通り、次の 100 年に向けて新たな挑戦を続けていきます。

本中期経営計画は、2030 年近傍の目指す姿に向けたファーストステップの 3 年間の位置付けです。

事業ポートフォリオ進化の観点から、次の成長事業への経営資源の重点的な投入に加え、これまで実施した成長投資の成果刈り取りと、「戦略再構築事業」の改革を同時並行的に進めていきます。加えて、2030年、更にはその先を見据えた「抜本的事業構造転換」についても検討を進めます。

次の成長のための挑戦的な投資については、「10のGrowth Gears」(GG10)にフォーカスしています。「Growth Gears」というのは、旭化成の成長を回す「Gear」と、社会の変革を回していく「Gear」の2つの意味をかけた言葉です。「GG10」の具体的な事業は、「マテリアル」では水素関連、CO₂ケミストリー、セパレータを含む蓄エネルギー、自動車内装材、デジタルソリューションの5つです。「住宅」では、北米・豪州住宅の展開と、環境配慮型住宅・建材の2つ、そして「ヘルスケア」では、クリティカルケア、グローバルスペシャリティファーマ、バイオプロセスの3つです。当社グループはこれらGG10に関して、2022～2024年度の累計投資額（意思決定ベース）で約6,000億円、2024年度のグループ事業利益の50%以上（本社共通費などを除く事業利益の合計に占める割合）という目標を掲げています。



2. グリーンボンド・フレームワーク

当社は、以下の「調達資金の用途」で定める各プロジェクトへの充当を目的として、グリーンボンドによる資金調達を決定し、本フレームワークを策定しました。

本フレームワークは、国際資本市場協会（ICMA）の定める「グリーンボンド原則（GBP）2021」及び環境省の「グリーンボンドガイドライン（2022年版）」に適合しており、以下の4つの項目について定めています。

1. 調達資金の用途
2. プロジェクトの評価及び選定のプロセス
3. 調達資金の管理
4. レポーティング

2.1 調達資金の用途

本フレームワークに基づきグリーンボンドにて調達された資金は、新規又は既存の適格事業に関連する支出又は投資のファイナンス又はリファイナンスに充当する予定です。

なお、既存支出のリファイナンスに充当する場合は、グリーンボンドの発行から遡って24か月以内に実施された支出とするとともに、グリーンボンド発行時点において、対象資産の概要とリファイナンス額を公表します。

適格事業

グリーンボンド原則事業区分	適格クライテリア
再生可能エネルギー	水力発電設備 <ul style="list-style-type: none">• 既存の貯水なしの流れ込み式の最大出力20MW以下の水力発電設備• 運営面での安全性に係る水準の維持又は改善を行いながら、発電の効率化、設備寿命の延長を行う目的での改修、改良、メンテナンスの実施及びこれらに関連する作業の実施

除外クライテリア：以下に該当する事業については、グリーンボンドの資金用途からは除外します。

- 化石燃料を使用した発電
- 20MW超の大型水力発電

2.2 プロジェクトの評価及び選定のプロセス

2.2.1 プロジェクトの選定における適格性及び除外クライテリアの適用

当社のサステナビリティ推進部及びエネルギー総部が適格性の観点で対象事業候補を特定します。候補とした事業について、当社サステナビリティ推進部、経営企画部及び経理・財務部が、当社のグループ理念及びグループ・ビジョンとの適合状況を踏まえて適格性を評価し、対象事業を選定します。その結果については、経営会議にて報告します。

2.2.2 環境目標

当社グループは、「環境との共生」をグループビジョンとして掲げ、地球環境対策の取り組みを重要課題と位置づけています。地球環境対策に関するグループ方針を定め、マネジメント体制を整備した上で指標・目標を掲げて活動を推進しています。特に気候変動に関しては、自然環境や社会に大きな影響を与える世界の課題としてかねてより認識しており、創業以来培ってきた技術や知見をもって取り組んでいくことを、当社グループの主要課題としています。持続可能な社会の実現に向けて、当社グループは、2021年5月に2050年時点でのカーボンニュートラル（実質排出ゼロ）を目指すことを表明しました。当社グループの事業活動に直接かかわる温室効果ガス（以下、「GHG」）排出量であるScope1（自社によるGHGの直接排出）、Scope2（他社から供給された電気・熱・蒸気の使用に伴う間接排出）の排出量を対象としています。カーボンニュートラルを実現するため、エネルギー使用量の削減、エネルギーの脱炭素化、製造プロセスの革新、高付加価値／低炭素型事業へのシフトなど、実現に向けたロードマップを策定し、目標達成に向けて取り組みを加速させていきます。また、2030年には、2013年度対比でGHG排出量を30%以上削減することを目指しています。

2.2.3 環境リスク、社会リスクを低減するためのプロセス

事業の適格性の判断の際は、対象とする事業が環境・社会的リスク低減のために以下について対応していることを確認します。

- 事業の所在地の国・自治体にて求められる環境関連法令等を遵守し、必要に応じて環境への影響調査を実施していること
- 事業実施にあたり地域住民への十分な説明を実施していること
- 水力発電については、設備の上流及び下流の水量及び水質への悪影響がないこと

2.3 調達資金の管理

グリーンボンドにて調達された資金と同額を当社経理・財務部が管理フローに従い、適格事業に充当します。調達された資金については、当社経理・財務部が実際に適格事業にて使われた額を内部管理システムを用いて半年毎に追跡します。

調達資金は、充当されるまでの間は、資金と等しい額を現金又は現金同等物にて管理し、グリーンボンド発行から概ね36か月程度の間には大半の充当を完了する予定です。

2.4 レポーティング

当社は、適格事業への資金充当状況ならびに環境への効果及び社会的インパクトを年次にて当社グループウェブサイト／サステナビリティレポートにてレポーティングします。

2.4.1 資金充当状況レポーティング

当社は、適格事業に調達資金の全額が充当されるまでの間、資金充当状況のレポートを年次で公表します。資金充当状況及び充当されたプロジェクト概要は、当社グループウェブサイト／サステナビリティレポートにて開示します。その際に機密性を考慮し可能な範囲にて、以下の情報を公表します。

- 各適格事業への充当状況（充当額/割合）
- 充当された適格事業の概要（充当予定時期を含む）
- 新規資金充当とリファイナンスへの充当割合
- 未充当金の額

資金充当状況に関する初回のレポートは、グリーンボンド発行から1年以内に行う予定です。

なお、調達資金の金額が充当された後に大きな資金状況の変化が生じた場合は、適時に開示します。

2.4.2 インパクト・レポーティング

当社は、グリーンボンドの償還までの間、当社グループウェブサイト／サステナビリティレポートにて、適格事業に関連する以下の指標を機密性及び守秘義務の観点から開示可能な範囲において年次で公表します。

- 水力発電総容量（MW）
- 改修された水力発電設備の発電容量（MW）
- CO₂排出削減量（ton/CO₂e）

以上